

みなと 物語



第2室戸台風を体験して

今回は、淀川左岸水防事務組合港第5防潮区水防分団長、赤野久雄さんに、昭和36年の第2室戸台風来襲時の体験を語っていただきました。

港晴
赤野久雄さん



三十間堀川船入りの防潮堤に残る消防用の穴のあと。
現在は全てふさがれています。

第2室戸台風は雨よりも風が強く、水防団員の私は防潮堤の巡視を行っていたのですが、まっすぐに立てず這って動くのがやっとの状態でした。お昼少し前、台風の目にはいったのか、急に静かになったと思いきや、しばらくするとふたたび暴風が吹きあれ始めました。町中が床上浸水し、バラックや豚も流れてきました。当時の防潮堤には、消防用に水を引くための30cmほどの穴があり、そこから流れ込む海水を防ぐため、近所のアパートから畳をかりて穴をふさぐ作業

をしていたのですが、流水に追いつかずやむなく撤退したことを覚えています。

避難所のハ幡屋小学校では、水防団員が水に浸りながら、避難してくる人たちを誘導していました。そこへ、「家に取り残された子どもを助けてほしい」とお母さんが飛び込んできたのです。増水はひどくなる一方でしたが、必死の母親の姿を見た当時20歳の若い私は、ひとりで現場の亀町の市営住宅(現在の市営ハ幡屋住宅)へ泳いで救出に向かいました。

そこはもう、玄関の高さまで増水して戸を開けることができなかったので、屋根を壊して中へ入りました。小学3～4年生ぐらいの子どもが机の上に立っていて、すでに首まで水に浸かっていました。私は腹に巻いていたサラシで子どもを引き上げ、離れないように縛りふたりで泳いで帰りました。たくさんの流木などで子どもも自分も傷だらけでしたが、無事に避難所につくことができました。

あれから、港区には大きな水害はありませんが、台風だけでなく地震による津波など、災害はいつやってくるかわかりません。「自分自身は自分で守る」という日ごろからの備えと心構えが、ほんとうに大切だと思います。



「第2室戸台風 大阪市港区入船町付近」
朝日新聞社 提供
入船町は、現在の八幡屋・池島付近

港区の水防団では、6分団総員535名の団員が、防潮堤18,050m、防潮鉄扉・水門220基の区内防御区域を、水害から守る活動をしています。「わがまち港区」を水害から守るため、水防団に入団しませんか？ 問 港区防潮本部(地域振興担当) ☎6576-9880